

2018. 9月議会 一般質問

9番、武井誠です。通告に従い市政一般質問を行います。

初めに、公平・公正な人事、不正や差別がなく働く人一人一人の人権が保障される職場が、いい仕事のできる職場であるという観点から職員採用、昇任・昇格、日常業務について質問します。

公文書の改ざん、隠ぺい、セクハラ、パワハラ、女子の合格者数の不当な抑制まで明らかになった大学不正入試、中央官庁や地方自治体の障がい者雇用数水増しなど、あつてはならない不祥事が次々と明らかになっています。

背景にはこういう不正を黙認するような組織構成員全体の倫理や人権についての感覚の鈍さ、情報を隠ぺいする体質や、それに対する内部告発を許さない雰囲気などの問題があります。とりわけ公務員の職場の状況は、民間の職場をはじめ、社会全体にも大きな影響を与えます。本市においても、不断の点検が必要です。

そこで、次の3点について質問します。

(1)本市の状況について

(2)公平・公正な人事を維持する具体的方策について

(3)職場におけるセクハラ、パワハラ等への対策について

次に全国学力・学習状況調査について質問します。

8月2日の記者会見における「万年最下位でいいと思うなよ」という発言と「全国学力テストの結果を、教員の手当や人事評価に反映させる」という大阪市吉村市長の提案が波紋を広げています。平均正答率、いわゆる平均点が20政令市中で最下位であったことに対して吉村市長は「結果に対し責任を負う制度にすべきだ」と訴えますが、林芳正文部科学相は翌3日の記者会見で「学力テストで把握できるのは学力や教育活動の一側面。適切に検討を」と慎重な対応を求め、多くの専門家や市民からも「あまりに短絡的」との声が上がっています。

しかし、さらに吉村市長は8月16日の会見で「自治体の裁量だ」と反論。「来年、最下位を脱せなければ、自身の来夏のボーナスを返上する」と述べました。例年、結果が公表されるのは8月末ですから、夏のボーナスを受け取った後になります。しかし、事柄の本質はそこではなく、新聞報道

によると「学校は人を育てるところ。点数を稼ぐところではない」「背景に家庭や貧困の問題があるのは明白だ。十分な対策を講じてきたと言うなら、その成果が上がっていないということだ」「子どもの学力や人間力は、点数のように見える形で表れる成果より、見えない力の方がずっと大きい。成績を上げたい市長のメンツなのか」（市立小学校の校長）「学力を上げるのに、金銭的なインセンティブで動く校長や教員はいない。教え子が問題に取り組む自信をつけるには何を積み上げればいいのか。学び合う時間と余力をあげたい」（生野区長）「学校には学力を上げてもらいたいのが本音。ただ、先生の評価には、子どもとの信頼関係や学力向上のプロセスも含め総合的に判断してほしい」（これは保護者の声）といった声が上がっています。

大阪では、9月中旬にも首長と教育委員で構成する総合教育会議で制度の詳細について議論が始まるとのことです。

毎年連続して多額の予算を使い、抽出ではなく悉皆調査として全国学力学習状況調査を行うことの弊害であると感じるところです。改めて、全国学力・学習状況調査の目的、学

校・教職員の本来の仕事は何か等が問われています。

そこで、次の2点について質問します。

(1)調査結果の取扱いについて

(2)調査結果を公表する理由について

次に、通学路の安全について質問します。

交通安全キャンペーンなどでの「子どもたちの安全が守られるように、みんなで力をあわせましょう。」という趣旨の市長の発言に賛同します。そのためには、交通ルールの周知とともに、通学路の安全確保が求められます。

そこで、次の2点について質問します。

(1)通学路の安全点検について

(2)通学路の安全確保について

以上をお伺いし、1回目の質問といたします。